

○内谷重治市長 大変申し訳ございません、長くなりまして、時間がなくなりました。

ぜひ、そのような形で、今後なお一層、特に小・中・高校生の皆さんにいろんな機会を通じて、長井市のまちづくりや未来の、我々大人が頑張っていることをお伝えしたいと思います。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ぜひ本当に本市への愛着などにもつながる、そして、定着にもつながるようになってくると思いますので、よろしくお願ひいたします。

広域的道路網整備につきましては、これはやはり市民の願ひであり、希望であると思います。長井南バイパスについても、構想、計画、そして完成まで20年ぐらいかかっているということをお聞ひしておりますし、これは望む我々長井市が一生懸命お願ひしていくとともに、我々議員でできるようなことがあれば、しっかりと取り組んでいかなければならないと感じているところです。そういったところでも頑張っ、一緒に頑張っ、いけたらと思います。よろしくお願ひいたします。

最後に、遊びと学びの交流施設ですけれども、やっぱりこれは市内外に広く本市の子育て環境を伝える施設になると思います。ぜひスムーズな開設になるように期待して、私の質問を終わります。ありがとうございます。

渡部秀樹議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位12番、議席番号8番、渡部秀樹議員。

○8番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。緑風会の渡部秀樹です。よろしくお願ひいたします。

2月4日土曜日、第20回となるながい雪灯り

回廊まつりが開催されました。市内各所では趣向を凝らしたイベントが開催され、手作りの雪灯りがまちなかにとり、幻想的な雰囲気になりました。私は、毎年、地元の大町エリアの会場で大きな滑り台つきの雪像を造り、当日は、その大きな滑り台つきの雪像に遊びに来る子供たちのサポートをしておりますが、今年の雪像はえとのウサギを3羽造りました。毎年恒例のため、楽しみにしていた子供たちが大勢遊びに来てくれ、午後3時過ぎから午後8時頃まで、ほぼ無休憩で子供たちのお手伝いをさせていただきました、楽しい時間を過ごさせていただきました。

今月の広報ながいの表紙に雪の中、楽しげにそりに乗る子供たちと、熊の毛皮を身につけ、ウサギのかぶり物を頭に乗せている男性の姿が掲載されておりますが、その熊の毛皮にウサギのかぶり物のいで立ちの男性は私であります。私が市報の表紙を飾ることなど、もう二度とないであろうと思いますので、この場をお借りして御礼申し上げます。とてもよい記念になりました。誠にありがとうございます。

また、一昨日、宮城県で生活しております私の子供から、母子ともに健康、無事に生まれましたとの報告を受けました。私にとって2人目の孫の誕生であります。この少子化の中、とてもうれしいニュースでありましたので、ご報告させていただきます。

それでは、通告に従って質問させていただきます。質問は大きく2項目ありますので、順次、お答えいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

1項目めは、都市機能向上等について、市長にお聞きいたします。

第五次総合計画後期基本計画の将来像として、「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」を掲げ、市政運営に取り組む本市のまちづくりなどについてお聞きいたします。

1点目は、除排雪対策等についてお聞きいた

します。

この質問は、議長のお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項 1 - (1) もご覧になりながらお聞きください。

最初に、消雪道路の散水時間等についてですが、本市の消雪道路の散水は、通行車両による歩行者への水の跳ね上げを防ぐため、児童生徒の通学時間である午前7時から午前8時と午後4時から午後6時に停止しておりますが、近年のような豪雪時に散水が止まると、その後、散水が開始しても消雪が追いつかないことが多くあります。また、近年の散水される水の量が以前よりも少なく感じております。この件についてどのように捉えているのか、市長にお聞きいたします。

続きまして、排雪場所の少ない住宅地の対策についてお聞きいたします。

住宅街などの建物が密集したエリアで、近年まで空き地や小規模な農地であった土地が、跡地に住宅等が建ち、排雪場所がさらに少なくなってしまう例をよくお聞きいたします。そのようなエリアの場合、もともとがまばらにある空き地などへの排雪に依存していたため、道路側溝も雨水用の側溝であり、降雪時の水位はなく、融雪はできません。このような排雪場所の少ない住宅地の対策について、市長にお聞きいたします。

2点目は、空き家対策についてお聞きいたします。

この質問は、議長のお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項 1 - (2) もご覧になりながらお聞きください。

最初に、市内の空き家、空き店舗数の推移と、現在検討している利活用等についてですが、近年、日本では、ほぼ未管理状態の空き家が急増しており、本市も同様であると思います。全国の空き家、空き店舗の利活用事例について紹介しているインターネットサイトでは、空き

家を新たな店舗への改装や、空き店舗の一角を集会所などのコミュニティ機能を持つ建物への改装、シャッター街となりつつあった商店街をまとめてイノベーションした例などが挙げられております。一般社団法人地域活性化センターのホームページにも「空き家・空き店舗への特色のある対応」と事例集が発刊されており、空き家、空き店舗の利用の促進は、地域再活性化への手だてであることを再確認させていただきました。

そこで、市長にお聞きいたします。本市の空き家、空き店舗数の推移と現在、検討している利活用等があれば、お聞かせください。

次に、移住希望者への空き家、空き店舗の紹介等についてお聞きいたします。

近年、日本中で空き家、空き店舗が増えておりますが、都会からのU I Jターン推進のため、積極的なPRをしている自治体や民間のホームページが見受けられます。全国の空き家、空き店舗の紹介をしている空き家バンクなどの不動産関係から、地方自治体やハウスメーカーによる田舎に住もう系のホームページなど、様々なサイトがひしめき合い、世の中の関心の高さがうかがえます。私は、長井市に帰郷し、定住しているので、他の自治体の空き家情報にあまり興味はありませんでしたが、各地方自治体の空き家バンクのサイトでは、今すぐ住み替えができるように、掃除や補修が住ませてある物件も多く掲載されており、都会からのU I Jターン者獲得への本気感に圧倒されてしまいました。

そこで、移住希望者への空き家、空き店舗の紹介等の本市の取組について、市長にお聞きいたします。

続きまして、3点目は、一家に1台タブレット端末の配置等について提案させていただきます。

この質問は、議長にお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項 1 -

(3) もご覧になりながらお聞きください。

2000年に始まったIT革命以降、デジタル化は少しずつ進み、ペーパーレス化も徐々に浸透してきたと思います。しかし、行政等からの広報物はいまだにペーパーレスの波に乗れていないのが現状かと思えます。

例えば各家庭のリビングに1台のタブレット端末があった場合、市報や市からのお知らせ、市議会だよりなどが定期的に配信され、市報とともに配布される広告や催物の案内、さらには突発的な催物案内も追加で配信され、隣組の回覧や配布に頼らず確認ができます。また、災害時の避難所情報などの可及的速やかに市民にお伝えたいことをその都度配信できます。広報関係の印刷物は最低限度の必要数に抑えることもでき、市民と自治体の新しい情報の伝達手段として、未来に向け、検討を開始してもよいのではないかと思います。

そこで、市長にお聞きいたします。市の広報や市からのお知らせなどを各家庭に直接配信するためのタブレット端末の配置について提案いたします。タブレット端末は、閲覧機能だけであれば、かなり廉価なものもありますので、ご検討のほどをよろしくお願ひいたします。

2項目めは、観光振興事業関連について、市長にお聞きいたします。

第五次総合計画後期基本計画の観光振興分野で、交流人口を増加させ、地域経済に貢献する観光と示されておりますが、この裾野の広い観光産業の推進について、確認と提案をさせていただきます。

1点目は、ながい黒獅子まつりについてお聞きいたします。

この質問は、議長のお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項2－(1)－①もご覧になりながらお聞きください。

最初に、オリジナル雨具やタオルの販売について提案いたします。

昨年のながい黒獅子まつりは、雨天ではありましたが、多くの観光客でにぎわうよいイベントであったと思います。祭りの全日程が終了するまで、多くの観光客が、雨に打たれながらも、各社の獅子舞に酔いしれておりましたが、かなり長い時間であったため、体調不良になるお客様はいないか、心配な面もありました。実際、夜の雨にぬれた黒獅子の姿はあでやかで美しく、祭りのおはやしが情熱的でドラマチックに感ずるものですが、黒獅子まつりの頃は雨天になりやすい季節であり、今後のことを考えれば、雨天でもしっかりとお祭りを堪能できる仕掛けや手法が必要になると思います。

そこで、獅子幕の波紋や獅子舞を少しかわいらしくデザイン化したキャラクターがプリントされたポンチョや傘などの雨具やタオルなどのオリジナルグッズの販売について提案いたします。また、販売は市内の各事業所による委託販売も検討できると思いますので、併せて提案いたします。市長のお考えをお聞かせください。

次に、栈敷席について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項2－(1)－②もご覧になりながらお聞きください。

さきの質問のとおり、雨が降りやすい季節のイベントでありますので、雨天でもしっかりとお祭りを堪能できる仕掛けや手法が必要になると思います。人気の栈敷席についても、ブルーシートやコンパネ、タオルなどで対応しておりますが、一度ぬれた栈敷席は冷たく、長時間座るのはかなり大変なようであります。配付させていただきました資料にあるとおり、1枚の長テーブルを1区画の2人でパイプ椅子に座り、4名で2区画、180センチ掛ける180センチ使うのであれば、現在のスペースで何とか間に合うのではないかと思います。栈敷席の前列は従来どおりの栈敷、後列を椅子席にすれば、後方の

立ち見エリアからの視界も確保できるのではないのでしょうか。

そこで、栈敷席の椅子とテーブルの配置について提案いたします。さきの提案のような雨具と組み合わせれば、お客様だけではなく、雨天時のスタッフの対応もかなり楽になると思います。市長のお考えをお聞かせください。

次に、飲食スペースのテントの配置について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項 2 - (1) - ③もご覧になりながらお聞きください。

さきの質問のとおり、雨が降りやすい季節のイベントでありますので、雨天でもしっかりとお祭りを堪能できる仕掛けや手法が必要だなど思います。昨年の黒獅子まつりでは、コロナ対策として、飲食スペースを設けましたが、せっかく設置した椅子とテーブルが雨ざらしとなってしまいました。

令和5年度は、従来どおりの内容で開催するとのことで、コロナ対策としての飲食スペースの配置については検討していないのかもしれませんが、昨年の飲食スペースは飲食物を販売しているテントからも近く、親子連れや小グループの方々にとっても優しい配慮であると、私はとても感心いたしました。

そこで、雨天時や強い日照りのときにもお祭りを堪能できるように、飲食スペースへのテントの配置について提案いたします。市長のお考えをお聞かせください。

2点目は、交流観光関連についてお聞きいたします。

最初に、タスのフィットネスクラブ等について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項 2 - (2) - ①もご覧になりながらお聞きください。

本市の産業振興・交流拠点の施設であるタス

の4階にフィットネスクラブがあり、プール、サウナ、ジム・スタジオなどが設けられておりますが、設備の老朽化はもちろんであり、様々な面で見直すときが来ていると思います。例えば、インストラクターの配置や個別の指導計画、トレーニング機器のメンテナンスなどを考慮すると、大手のフィットネス・スポーツクラブにお手伝いいただいたほうが顧客の満足につながるのかもしれませんが。また、フィットネスクラブにしっかりとした設備のマッサージルームやエステなどの配置があれば、顧客の幅も広がりを持てるのかもしれませんが。

さらに、タスの隣地には、類似施設である市営の小出プールもあります。使用目的や顧客は違うとしても、長い目で見れば、プールはタスに集約し、利用時間や曜日で使い分けたほうが本市のプラスになると思います。本市は、公共施設の更新と新設をしており、インシャルコストもそうですが、ランニングコストも気にせねばなりません。市民が満足できて、効率よく経営し、少しでもコスト削減をすることも大切だと感じております。この件について、市長のお考えをお聞かせください。

最後になりますが、レジャー登山向き登山道と周辺整備等についてお聞きいたします。

この質問は、議長のお許しをいただき、配付させていただきました資料の質問事項 2 - (2) - ②もご覧になりながらお聞きください。

本市には、本格登山愛好者向きの東北のmatterホルン、祝瓶山1,417メートル、小学生でも、体力と支え合いで登れる葉山1,237メートル、家族やグループで十分に楽しめる熊野山670メートルなど、登山道を持つ山があります。生き生きとした山ガールが登山の歴史を変えた第三次アウトドアブーム以降、レジャー登山としての登山道を売り込む上で大切なポイント、1つにまちなかからの移動距離、2つに駐車場や着替えができるトイレ施設などのセーフティ

ーゾーンの有無、3つに登頂に要する時間、4つに携帯電話の電波範囲、5つに眺望、6つに達成感、7つに周辺観光資源のバランスなどとされています。このレジャー登山としての登山道を売り込む上で大切なポイントを考慮すると、本市の登山道で最もバランスがよいのが熊野山登山道だと思います。しかし、現在の熊野山登山道は、少しずつ登山道脇の雑木が伸びて、眺望が利きにくくなっておりますので、少し切除したほうがよいのではと思いました。

また、他県からの登山者の多くが道照寺平コミュニティセンター前の駐車場で登山道が分からずに立ち止まってる姿が見受けられ、その多くの登山者が峰道に出るまで、登山道から離れたスキー場を歩いているようでありました。コミュニティセンター前には、しっかりとした看板がありますが、登山者が見やすいところに小型の案内板の設置やルート自体を分かりやすくするような工夫が必要と感じました。

また、新たに拠点施設となったタスの総合的な案内は工夫が必要と感じております。登山道の周辺施設となる野川まなび館などでの各登山道や民間の温泉施設の案内、文化観光などのまちなか観光エリアと登山道やダム湖の水辺のアクティビティー、古代の丘キャンプ場などのアウトドア観光エリアの総合案内も強化したほうがよいのではと感じました。

例えばタスや市内の宿泊施設を仕事で滞在利用しているお客様の余暇の過ごし方として、軽装備で登山が楽しめる熊野山登山道や気軽に楽しめるダム湖の水辺のアクティビティー、市内の民間温泉巡り、まちなか観光、文化観光の紹介などが確実にできれば、本市に滞在することの付加価値にもつながります。また、観光看板や案内板、印刷物などに詳細情報や現在情報が分かるQRコードの印字があれば、さらに親切で便利になると思います。市長のお考えをお聞かせください。

壇上からの質問は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員から大きく2項目、そして5点について、合計10個のご質問やご提言をいただいておりますので、順次お答えを申し上げます。

まず最初、1点目の第1項目、都市機能の向上等についてということで、議員のほうから大きく3つほどご提言、ご質問いただいておりますが、まず最初の(1)、除排雪対策等についてということで、1点目は、消雪道路の散水時間等について、実態などを詳しくご説明いただきながら、問題点などをご質問、あるいはご提言いただきました。

まず最初に、市民の皆様には、この冬も安全な冬の暮らしのために、道路除排雪等にご協力いただいておりますことに、この場をお借りして、感謝を申し上げさせていただきます。

議員からございました消雪の散水時間については、通勤、通学の際の歩行者の安全を優先する観点から、通学路に限っては、跳ね上げた消雪の水を歩行者が被ることのないように、これを防止するために、朝の7時から8時までの時間に停止をしております。これは議員からもあったとおりであります。

また、本市の消雪道路は、電気料金の軽減を図るため、融雪用の電力プランに加入しております。この契約によりまして1日2時間は電気を使用しない時間を設定する必要がありますので、基本的に夕方の4時から6時までの2時間を消雪施設の停止時間としている事情がございます。

通常の降雪には十分に機能を果たしておりますけれども、散水を停止している時間帯に想定を超えるほどの大雪に今年も見舞われました。散水を開始しても、議員からありましたように、雪がなかなか消えない場合がありますけれども、

消雪道路、消雪装置の考え方というのは融雪や路面凍結防止ということでありまして、散水で雪を消すというよりも、雪を溶かし、そこに車両が通るということで雪を消す仕組みなのです、そもそも。これは私ども一般市民から見れば、そういうふうには見ないんですが、実はそうしないと消えないです。議員からも写真の提供ありましたように、あのとおり、ある程度車が通れば、その部分は消えるんですが、どんどん車が通らないときれいに消えないと。ですから、消えるまでは丸半日、1日かかったりする場合もありますので、その辺はご了承いただきたいなど。通学時間帯の散水の停止については、学校等からもご要望もいただいております、消雪の水を児童生徒が被ることを防止するために散水の停止時間を設定していることに対してご理解をいただきますようお願いいたします。その分、安いプランということなのですね。かなり格安になるようであります。

それで、議員からもう一つ、散水量のご質問でございますが、前述のとおり、消雪の水だけで雪を消すのではなく、車両交通との連携を図って、雪が消えるように、散水量を実は調整しております。地下水量が減っているのではございませんので、定期的に水量のどのぐらいまで水位があるかというのは検査しておりますので、そういうことの原因ではなくて、歩行者の妨げ、特にやっぱり最近、子供たちも、生徒も長い深い長靴というよりも、ブーツっぽいものとか、スニーカーで来てるお子さんもたまにいますので、そういったことも含めて、水量を調整しているということでございます。

また、毎年実施している降雪期前の消雪設備の点検の際、地下水をくみ上げるポンプや揚水管の機能が低下している場合は、国の補助や有利な起債等も活用しながら、適時修繕を行っております。今後も消雪設備の維持管理に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくご

指導賜りますようお願いいたします。

続きまして、2点目の排雪場所の少ない住宅地の対策についてということで、これは議員からご指摘いただいたとおり、本当に雪の押し場がなくて、場合によっては、同意していただけないのに置いてってしまったとか、押しているみたいなことでの苦情などもある、今までは結構あったようです。除雪での雪押し場につきましては、毎年、市民の方や地区長さんはじめ、地区のご協力を得て、空き地や農地などに雪を押させていただいております。新たに住宅ができたことで雪押し場が少なくなっている箇所もありますが、そういったところは致し方ないので、除雪状況を見て、ロータリー車等での排雪の対応を行っている状況でございます。来年度は、ロータリー除雪車1台と小型除雪車1台を購入します。排雪作業に有効に活用してまいりたいと考えております。

今後も雪押し場所の確保や除排雪の対応をしっかり行ってまいりますので、どうぞよろしく、今後ともご指導いただければと思います。

続きまして、(2)の空き家対策についてでございます。

まず、2点いただいておりますが、1点目は、市内の空き家、空き店舗数の推移と現在検討している利活用等についてということでお尋ねいただきました。

空き家について、本市では、調査を開始した平成25年度は351件でございました。その後、昨日もいろいろ説明させていただきましたが、毎年数十件のペースで増加しまして、過去5年間の件数を申し上げますと、平成29年度が440件、平成30年度が473件、令和元年度が456件、令和2年度が442件、令和3年度が462件となっております。今年度につきましては、年度末にならないと確定ということにはならないんですけども、現時点では455件になる見込みでございます。平成30年度以降、増減を繰り返していま

すが、これは空き家発生件数が除却件数を上回ったり、下回ったりしたためでございます。

空き店舗数の推移につきましては、市内5つの商店街、これはあら町、本町大通り、長井中央、駅前通りですね、それから高野町、大町通りの数字になりますが、令和元年が52件、令和2年が57件、令和3年が61件、令和4年が62件となっており、平成のときにも大きく空き店舗が増えたわけでございますが、令和になりましたから、ここのところ、特にコロナ禍の関係などもあるのか、あとはやはり後継者がいないということなどもあって、年々増加傾向にあるようです。

空き家、空き店舗の利活用につきましては、一般住宅としての活用はもちろんのこと、移住希望者向けのお試し体験住宅、ゲストハウス、シェアハウスとしての利活用等を想定しております。また、中長期的には、文教の杜ながい周辺エリアを面的に整備していく計画があることから、同エリア内の空き家、空き店舗を活用したまちめぐり美術館などを想定しているところ です。

ほかにも、空き家の活用方法として、全国的には介護施設やセーフティーネットの住宅、サテライトオフィス、時間貸しの住宅、店舗などがあるようでございます。長井市といたしましても、既存の枠にとらわれず、多様な空き家の利活用について検討してまいります。

次に、4点目の移住希望者への空き家、空き店舗の紹介等についてでございますが、これは、渡部議員からありましたとおり、全国的には、官民間問わず、魅力的な空き家、空き店舗の紹介をしているサイトが増えております。本市においても、空き家バンクで移住希望者に物件の紹介はしているものの、担当課は地域づくり推進課でございますけれども、担当課で空き家バンクや空き家利活用業務に十分な体制が取れなくて、空き家バンクの掲載件数が少なく、取組が

進んでいないというのが現状です。やはり私も土地開発公社とか、そういった不動産に関わる業務というのはずっとやってないんですね。もう、そうですね、平成の10年頃から、ほぼもう土地開発公社も休眠状態で、結局、平成20年ですかね、解散ということで、不良債権をずっと持っていたということから、財政再建で様々な国の助言やら制度を活用する際に、そういったことでこれは解体せざるを得なかったと。

今現在は、土地に関わることについては、建設課の担当が、公共道路等の用地交渉、あとは、現在は、新産業団地整備課、こちらのほうも建設課の用地の担当をしたことある職員なども配置しておりますが、本当に経験者が少なく、なおかつ限られた人数の中でいろんなことをしなきゃいけないということで、これが大きな課題だと思っております。

そんなことで、本市の空き家で最も多いのが、ケースとしてですけども、年老いたご両親が亡くなった、あるいは施設に入居して、空き家になったと。ただ、ご子息は県外等の遠隔地にいるというケースで、両親が住んでいた家ということもあり、なかなか気持ちの整理がつかず、手つかずのまま放置されているというケースが多いように感じます。このように空き家というのは、所有者の心情に加えて、相続等の法律的な問題も関係してくるため、物件それぞれに複雑な問題、課題等が潜んでいると感じているところ です。

空き店舗についても、長井市の場合は、店舗兼用住宅が多いということと、店舗は空いているが、住宅には所有者が住んでいるというケースもございます。本来は、空き家、空き店舗の所有者それぞれにもっと寄り添った相談体制などが取れれば、空き家バンクの件数、内容とともに充実して、空き家、空き店舗の活用が進むと考えておりますが、ただいま申し上げた現状を踏まえますと、職員だけではとても対応し切

れるものではないと感じております。このため、今後は、例えば地域の詳細な情報を持っておられる市内各コミュニティセンターや地区長さん、あるいは不動産の専門的な知識を持っている不動産業者に加えて、市内には遺品整理業を生業とするという会社も昨年立ち上がっておりますので、そういった方々のご協力いただきながら、今後、空き家、空き店舗所有者の意向調査や活用に向けての課題の整理などを行い、移住希望者のみならず、広く空き家、空き店舗を紹介できるような仕組みづくりを行ってまいりたいと考えております。

続きまして、(3)の市の広報等を各家庭に直接配信するため、ペーパーレスということも、そういった時代になるということからもあって、一家に1台、タブレット端末の配置等についてというご提言でございます。

議員ご提言のペーパーレス化については、印刷費等のコスト削減や事務効率化のためだけではなく、環境保護、カーボンニュートラルとかですね、あるいはSDGsにつながる行動の一環として積極的に取り組んでいく必要があると考えています。

市役所内でも文書管理システムにより、文書を画面上で決済し、データで保存する仕組みを導入しており、また庁内の会議等においては、モニターやタブレット端末を活用することで資料印刷を極力行わない取組を進めております。

ご提案のように、市報やイベント情報などをタブレット端末での閲覧とすることによりまして、紙の印刷や配布に係るコストが削減でき、さらには、必要な情報を瞬時に流すことができるというメリットがございます。一方で、無線等でインターネットに接続できる環境が必要になりますので、端末本体だけではなく、そうした環境整備や不具合が発生した場合の保守、将来的な機器更新に係る費用などについて考慮する必要があります。また、タブレット端末を使

い慣れていない高齢者の方などにとっては、慣れるまでに時間を要し、フェース・ツー・フェースで説明するなどのサポートも必要です。やはり広報の目的は、市民一人一人に必要な情報を認知してもらうことだと考えております。紙媒体であれば、配布物を見ることで一通りの情報を自動的に得ることができますが、課題としては、電子媒体の場合は、検索機能により、自分が知りたい内容だけを能動的に見る傾向があるんですね。一方的に流せるものじゃないので、ここが課題なのかなと思っております。必要な情報が認知されにくいということも予想されるんですね。

現在、市報情報のお知らせについては、あらゆる面でやってるんですね。例えば市民でやっぱり見られるのは中高年、高齢者の方が多いと思っておりますし、若い世代はスマホなどから、タブレットももちろんあるんですが、インターネットによる、LINEなども含めて長井市のホームページ、ながいチャンネル、フェイスブック等々が、あわせて、今度は電波による広報としてコミュニティFM、おらんだラジオですね、あと市民も、広報ながいと、タブロイド版の広報紙のあやめRePo、それから、状況によって回覧板という、これぜひ隣組で必ず見てもらいたいものを情報として見てもらうとか、そういう工夫をしているんですが、それでも、なかなか市の情報をご存じない方が非常に多いと。したがって、例えば長井市のいろんなまちづくりとか、行政情報、市議会でも市議会だよりなどもいろいろ発行していただいているんですが、やっぱりなかなか市民の皆様は、実情は、自分の知りたいところだけなので、市全体の課題とかというのは、それぞれの人の判断で、自分の関心のあるところだけご覧になるということでございますので、GIGAスクールじゃなくて、GIGAシティというのも面白いですけども、なかなか課題があるのかなと思います。

また、情報、災害情報など、緊急にお知らせすべき情報については、デジタルもいいんですが、やっぱり非常時には、まだまだアナログの力というのは、これはこれで非常に効果を発揮するものと思っております、無料配布している防災ラジオでの対応が可能であります。

行政情報をお知らせする手段については、紙媒体と電子媒体、それぞれに一長一短がありますので、情報を分かりやすく市民にお伝えするという本来の目的に沿って、それぞれの利点を生かしながら、今後もアナログとデジタルの両面で効果的な情報発信に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、大きな項目2の、観光振興事業関連についてでございます。

まず、(1)のながい黒獅子まつりについて、いろいろご提言をいただきましたので、お答えを申し上げます。

まず①のオリジナルの雨具やタオルの販売についてというようなご提言でございます。

ながい黒獅子まつりに関しまして、様々、大変貴重なありがたいご提案をいただきました。お礼を申し上げます。ただ、黒獅子まつりを含め、議員もご承知のとおりだと思うんですが、祭り事業については、長井観光協会に委託して実施しております。祭りごとに実行委員会を観光協会において設けて、皆さんボランティアで、長井市民の皆さん、あるいは外からもいらした方に祭りを楽しんでいただきたいということで運営に当たっていただいているわけですね。したがって、長井観光協会が企画、実施しているものでございますので、委託している長井市として、まずは考え方をお答えさせていただきたいと思っております。

初めに、雨天時の対処商品のアイデアについてでございますが、ご提案、本当に素晴らしいアイデアだと思います。面白いと思います。現在は、観光協会の受付ブースで、雨天用に簡易

なかつぱの販売を行ってます。ご提案いただきました黒獅子などのデザインを取り入れた商品につきましては、本来は、市内の商店や事業所さんに商品開発していただき、販売していただければ、市民と観光が一体となり、よりよい黒獅子まつりになると思います。観光客の方のお土産にもなりまして、市民との交流も深まり、地域経済が活気づくと考えております。大変面白い企画で、これはどこかでやってほしいなど。ただ、市でこれをやるというのはちょっと違うと思っておりますので、ぜひ祭りの機会を捉えて、商業活動を広げていただきたいと思いますところでございます。

なお、現在、市の観光振興計画を策定中でございまして、市が進める振興策ももちろん含んでいますが、観光地域づくりは行政がやるものではなくて、市民の皆さんと目標を共有して、やっぱり民間の皆さんが観光振興をやっていただくことによって、地域の経済が潤ったり、あるいは雇用が生まれたりと、あと、起業、創業のチャンスになったりということだと思っておりますので、みんなで参加して、活気を生み出し、経済を循環させる、そういった視点で取り組んでまいりたいと考えております。

この項の2点目、栈敷席についてでございます。

栈敷席を椅子、テーブルに設置してはどうかというご提案にお答えいたします。

これは、渡部議員おっしゃるように、実は私もちょっと大変だろうなど、若い人だといいたんですが、あれに座るとするのは、我々みたいな高齢者にはちょっときついなど、しかも雨でぬれた後に座るとするのは、見てても大変だな、高いお金を払って買っていただいて、確かにいい場所ではあるんですが、つらそうだなとは思っております。そういった意味では、確かにお客様、栈敷席を予約いただいたお客様に不便をかけているところもあるわけですが、一方で、

栈敷席は低く、背を低くしていると、いわゆる中に入れない周りの人たちも黒獅子が見えるわけですね。ですから、ここのところを何か工夫が必要なのかなと思います。栈敷席の前列、後列で高さを変えたりしておりますが、より多くのお客様が見えるように、見やすいように配慮しているものだと思っております。これは祭り全体の写真映えとか、テレビ映えも考慮していることもご理解いただければと思います。

したがって、やり方としては、あそこに今、よく公民館なんかには、椅子ではなくて、腰の低い腰かけっていいですか、子供用の椅子みたいなものがありますよね、あのちっちゃいやつ。それに低いテーブルなんかだと、もしかしたら可能かもしれませんが、その辺などは、やはり観光協会さんのほうでどう考えるかですが、お金もかかりますので、ただし、やっぱり高い席をご購入いただいた皆様も、もう少し快適にご覧いただけるような工夫が必要なのかなと思っております。

黒獅子まつりは、これまでの経験から雨に当たることが多いと、雨天の対策、改善策は考えなければいけないところであり、渡部議員から具体的な配付資料で工夫ある提案をいただきましたが、まあ、通常の椅子、テーブルとした場合、やはり相当混雑もしますし、来場者の通行も考慮しなければならない。また、レンタル費用や運営の手間などの課題もありますので、雨でもなるべく不便なく楽しんでいただけるようなバランスを取ったよりよい方法を観光協会にも検討していただくように、私どもからもお願いしていきたいと思っております。

続きまして、8点目ですが、飲食スペースのテントの設置についてということで、議員からは、飲食スペースのテント配置について、やったらどうだということで、喜ばれるよというようなご提言をいただきました。こちらは、コロナ対策として、令和4年度に臨時的に設置した

ものと伺っておりまして、今後は、有料の栈敷席とのバランスを考えましても、基本的には飲食スペース自体、設置予定はないと聞いております。雨の中での飲食は難しい面もあると思っておりますが、取れるスペースにも限りがありまして、一部だけテントを張ることで大変な混雑も招きかねないということもありますので、今後、コロナ対策の必要性が出てくるようであれば、その際には、飲食スペースの設置やテント対応について適切に実施したいと思っております。

続きまして、(2)のタスのフィットネスクラブの提案についてでございますが、交流観光関連についてということで、タスパークホテル4階のフィットネスクラブの管理運営につきまして、何点かご提案をいただきまして、ありがとうございました。

まず初めに、現在の直営ではなく、大手スポーツクラブへの運営委託をしてはいかかかということなのですが、いろいろ調べてみますと、過去にヤマコーコミュニティ事業部が周辺の管理指定を行っていることもありまして、相談を持ちかけられたことがあったと聞いております。しかし、フィットネス会員数の少なさと中途半端な施設規模などを調査した結果、インストラクターの人件費やシフト制になった場合のスタッフの確保など、収支面で合わないとの結論に至り、そこで話は終わったと、以前ですね、そのように聞いております。

現在の会員数が308名、これが1,000名以上まで増えれば、外部委託も可能かと思われれます。入会金等については、春、秋、正月に無料のキャンペーンを実施して、会員数を増やしておりますが、料金等の見直しについては今後も課題であり、リノベーションするこの時期に検討すべきと思っております。

また、タスパークホテルの2期工事として、1月下旬にリノベーションということですね、内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金、地

方創生拠点整備タイプの申請をしております、今月中旬に採択になるかどうか分かります。築35年を超えましたので、ここで多分大規模改修しないと、山形のホテルが築40年でもう閉めるということがあったように、タスもそういった道を歩まざるを得ないんだろうと思っておりますが、しかし、あそこには長井商工会議所も入ってますし、あとは山形県信用保証協会ですね、あと置賜地域地場産業振興センターと、タスのほうでタスパークホテルが運営されておりますので、これは何としても残していかなければならない施設だということで、この申請、3回目でございますので、何としても採択していただきたいと願うところでございます。

1期工事と同じく、1期工事は1階、2階、3階のところをさせていただいたんですが、デザインビルド方式で、その都度提案をいただきながら進めていく予定でございますので、プールやサウナについても、長井市が目指す、人生100年時代に向けた健康づくりの視点に立った、沿った改修をリノベーションということでしていく予定でございます。

予定では、大きく変わる場所は、例えば5階に商工会議所さんが移動いただいて、1階の商工会議所さんのエリアを市民の様々な活動とか、あるいは飲食などを楽しんでいただくスペースにしようとか、いろんなことを考えておまして、4階のプールについては、やっぱり築35年であのぐらい重いものを置いているというのはなかなかないですよ。ですから、構造的なことも含めて、今後どうするか、いろいろリノベーションで案がありまして、その中で検討していくことになると思いますが、一方で、すぐそばにある小出プールにつきましては、市内の小・中学生はもちろんのこと、プールの併設がない保育園等の夏場の水遊び場所になってるんですね。したがって、令和4年度は、このコロナ禍ではございますけれども1,593人の利用者

がいらっしやいました。これは簡単に廃止とはいかないと。あと、じゃあ、タスの4階に、みんなでそこで遊んでくださいということで混乱しないかと。非常にここは難しく、まずは当面、小出のプールは引き続き、子供たちの、安全で安心に楽しめていただけたところなので、廃止しないで、当面は残して、その代替ができてからでないと、これは廃止はできないと考えてます。

最後になりますけれども、レジャー、登山向き登山道と周辺整備等についてということで、議員からは、登山やアウトドア関連のご提案をいただきました。熊野山の登山道につきましては、初心者でも楽しめ、長井ダムや散居集落の望める大変よいコースになっていると思っております。眺望における支障木は、民地でもありますので、ご協力いただけるようお願いしていきたいと思っております。熊野山は長井市の重要文化的景観が一望できる場所にありますので、地域の皆さんの協力を募り、よりよい場所となるように努めていきたいと考えております。

熊野山登山におきましては、野川まなび館へ駐車いただいてからの出発を推奨しております。県道から直接登っていただくのが本来のルートではあります。しかしながら、道照寺平コミュニティセンターから歩き始める方が大半となっております。スキー場運営委員会で案内表示をしていただいておりますが、今後、工夫して様々な相談はしてまいりたいと考えております。

また、タスからの観光情報発信ということについては、せっかくお越しいただいている長期滞在の方や観光のお客様に様々な情報提供を行うことで、市内滞在時間を延ばしたり、次の来訪につながったりと、大変なメリットがございます。現在策定中の観光振興計画の中でも多様な事業者との連携というところに力を入れていきたいと考えておまして、タスのみではなく、

市内の宿泊業や集客施設、飲食業などの様々な業種の皆様と共に観光への誘導にご協力を願ってまいりたいと考えます。

まちなかめぐりのお客様、宿泊の方々にウオーターアクティビティーや周辺地域の観光スポットを紹介し、逆に登山で訪れた方にはまちなかの飲食店や文化財のご紹介をするなど、相互に情報発信して、長い時間、長井市に滞在いただき、満喫いただく上で、経済効果が高まるよう連携してまいります。

なお、QRコードの活用につきましても、観光振興計画の中でも着目しておりますが、観光DXの推進を進める中で、いち早く入れやすいものとなりますので、順次改良してまいりたいと考えているところでございます。

たくさんのいろいろなアイデア、誠にありがとうございました。

○浅野敏明議長 8番、渡部秀樹議員。

○8番 渡部秀樹議員 まず、10項目、たっぷり、また質問させていただきました。

まず、心情として、我々議員はこう、喫緊の課題や改善策、財政のことも議場でお話しさせていただくこともやはりあります。しかし、我々若い議員は特にですが、10年後、20年後、あるいはそれ以上の未来を見据え、長井市のために検討を開始してほしいこと、審議を始めてほしいこと、計画に加えてほしいことなど、今現在、市政のかじ取りをしている内谷市長と意見を交わして、市当局やこの議場におられる各議員と少しずつ積み上げながら合意形成をする場であると私は思っております。

例えば私のこの前にお話しした南北に新たな拠点や小さな拠点の考え方ですとか、官民連携によるタワーマンション、仮称長井学園による緩やかな学校再編策とか、あとは、民間の温泉施設と提携した市民等の福祉など、ちょっと聞くと、荒唐無稽のような提案している場合もあると思いますが、より住みやすく、心地よい長

井市の未来を思うからこそその渴望であります。どうかご容赦願いたいと思います。

このたび様々申し上げましたが、まず、1点目として、2次質問で、空き家、空き店舗についてですが、昨日、ちょっと補正でという話もあったと思うんですけども、できますれば、次年度中に1件や2件、モデル事業的に、すぐ住めるように後片づけとか修繕を行いまして、それ以降になると思うんですけども、都会に向けてSNSで田舎に住もう的な発信を開始できないかなと、内谷市長、どうでしょうか。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員おっしゃるのも分かります。準備で、令和5年というのはちょっと難しいのかなと思ってます。というのは、まずは令和5年度、「くるんと」はじめ、各中心市街地の商店街を含め、ある程度いろんなイベントをして、まずはもう一回、まちなかにぎわいを取り戻すようなきっかけをつくらうと、かつて、もとまちフェスタとか、いろんなものをなさってますし、冬は冬で雪灯り回廊などでやっていただいておりますが、まず一つは、ちょっと時間がないので簡単に言いますが、重要文化的景観なんかも生かしてないんですよね。私は、やっぱりきちんとした戦略を立てて、やれるという見通し、財源も含めて、立てた後にいろんなものに手を打っていったほうがいいと思ってるんですね。まずはやってみようというのはいいんですが、全体像を示して、ある程度ストーリーを考えないでやるというのは、非常に失敗すると大変だと。失敗は付き物だと思っております。我々行政で失敗してはいけないって昔言われてましたけど、そんなことを言ってる時代じゃないので、失敗しても次につながるようなものにするには、やっぱりあらかじめちょっともう少し整理していきたいと思っておりますので、ぜひ急いでまいりますので、今後ともご指導いただければと思います。

○浅野敏明議長 8番、渡部秀樹議員。

○8番 渡部秀樹議員 市長、おっしゃるとおり、昔言いましたよね、行政だから心配しちゃいけないなんてね、民間ができてないことを行政がやって成功に導ける、そんな甘いもんじゃ世の中ないです。市長は民間で頑張ってきたんだから分かると思いますけども、やはり何事もトライ・アンド・エラーの連続です。ただし、次につながるためには、市長おっしゃるとおり、計画を立て、綿密に打合せをして臨んでいくのが大事だと思います。ぜひその姿勢で、ただし、向かってほしいというのが私の願いであります。

時間も少なくなってきましたので、ここからはお願いということですが、タブレット、ぜひこれやってほしいというのものもあるんですけども、こういう考え方もありますよねという提案です。毎回言いますが、荒唐無稽な話ですが、時に国で一部地域用の補助事業とか出るときありますよね、こういう、本当に誰考えたんだろうという補助事業、ぜひ手を挙げて臨んでほしいなと思います。市全体じゃなく、一集落ですとかそういうところでスタートしてもいいと思いますので、これはお願いになります。

あと、ながい黒獅子まつりも、これは私、ここで述べたのは、ぜひこれを観光協会ですとか黒獅子まつり実行委員会のほうに上げてほしいなと思います。こんなこと言う変わった議員がいたんだよと、笑い話で構いません。ぜひ上げていただきたいと。どうしてもあの会議、みんなしいんとしているんで、ぜひ提案があったということを伝えていただきたいと思います。

また、フィットネスクラブについても、これを通して、いろんな考え方だと思うんですけど、これ併用できるなら両方残してもいいんだけど、どっちかにできるならば選択して、逆にこっちをバージョンアップしたほうがいいかなって、多分市内にいろいろあると私は思います。ぜひそういう目線で、総合的なご検討を市内全域で

していただきたいなと思う次第であります。

まだまだこうやって議場で市長と意見を交わしたいわけですが、お時間のほうがもう15秒です。次の続きのために、6月議会戻ってこれるように努力したいと思います。よろしくお願いたします。

私からの質問は以上になります。

○浅野敏明議長 ここで暫時休憩といたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時03分 休憩

午後 1時00分 再開

○浅野敏明議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

なお、渡部秀樹議員、蒲生光男議員から早退させてほしい旨の届出がありましたので、ご報告いたします。

鈴木 裕議員の質問

○浅野敏明議長 それでは、13番、議席番号4番、鈴木 裕議員。

(4番鈴木 裕議員登壇)

○4番 鈴木 裕議員 一般質問3日目、3番目になります。清和長井の鈴木 裕です。一括質問、一括答弁式で質問させていただきますので、よろしくお願いたします。

つい先日のことですが、昨年生まれた子供の数が速報値で80万人を割って79万人台まで減少したとの報道があったことに驚きました。2019年に90万人を割り込んだばかりなのに、昨年に